

本論

打ち上げ前の花火玉は丸い球体で、中に光や色を発する「星」と、花火玉を割って星を遠く飛散させるための「割火薬」が層をなして入っている。上空で破裂すると、一瞬で火薬の燃焼による花が大きく整った球体に広がる。これが「割物」と呼ばれる花火で、飛び散る星は光の粒となって明るく多彩な色を放つ。そして、その色が何度となく移り変わるという変色のしかけを備えている。これは、発色の違う火薬が二重三重の層になっているためである。

「割物」の中でも、球体の内側にさらに「芯」と呼ばれる球体を一つ、または複数入れ込んだ「芯物」という種類の花火がある。これは、製作にたいへん手間がかかることから、高い品質を

花火の種類

日本の花火の楽しみ

小野里 公成

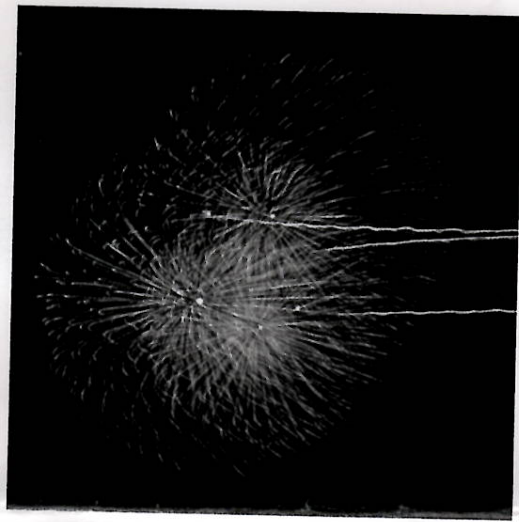
重要な部分

序論

日本では、夏を中心に一年を通して花火大会が開催されている。その数は主だったものだけでも千か所以上にのぼり、いずれも数千から数万人の観客がつめかけて花火を鑑賞する。花火が日本人をこれほどまでにひきつけるのは、どうしてなのだろうか。問題提起！

現在は、欧米の花火大会のように大量の花火を連続して打ち上げる方法が人気を博している。しかし基本的には、一発ずつの花火をじっくり鑑賞できる打ち上げ方法が日本の花火大会の主流だ。ゆえに日本の花火は、一発のときばえを極限まで追求して進化してきた。その特徴は、整った形

と、明瞭な色彩が変化する様にあり、そこに人は美しさと魅力を見いだすのだと思う。



欧

徴

9 意 極 限

魅

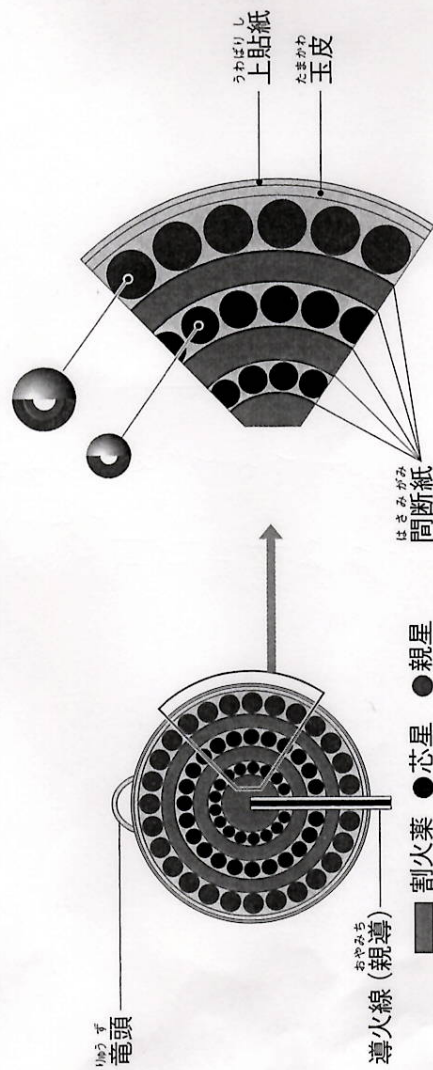
玉皮

「星」や「割火薬」を入れる紙製の容器。その外側に、玉皮全体の強度を調整するための上貼紙を貼り重ねる。

芯

1 意 明 瞭

6 意 燃 焼



「芯物 (八重芯)」の花火の構造 (星の中にさらに火薬の層が作られる)